

2022年度 経済学部 演習紹介

ピックアップゼミ

経済学科

江里口ゼミ

小出ゼミ

丹波ゼミ

国際経済学科

亀井ゼミ

石ゼミ

立石ゼミ



— プロフィール —

担当科目：経済思想史，経済英語など

演習のテーマ：どうして経済思想は日常の役にたつのか

出身地：佐賀県小城生まれ，熊本県八代育ち

好きなもの：お酒，ウッド・ベース，カヌー，釣り，ジョギング，自転車，キャンプ道具，エレキ・ギター（メタル），カメラ（ライカ），ミニシアター系BS日本映画，温泉・史跡めぐり，日曜大工，筋トレ，バカになりきれるという事

演習テーマ：

大学教員としてのキャリアは25年，西南に赴任して10年です。ディベート・ディスカッション中心のゼミです。おしゃべりが大好きで，友と夜通して人生を語ってしまう濃い目の人にはぴったりの場所です。議論好きの集まりでゼミ中は非常に騒々しく，いつも時間が足りずに苦労しています。ゼミでは卒論を書き，各自で研究テーマをもってもらいますが，議論が深まってくると，しっかりした準備が必要になってくるからです。ゼミ生は，他者の研究テーマに首をつっこみながら，ともに励まし合い，多くのテーマについて幅広く学んでいるようです。

行き詰まった時，「考えてからしゃべる」ではなく，「しゃべりながら考える」ことがしばしば有益です。「良い意見を言おう」とすると頭が真っ白ですが，「稚拙でも良いのでまずは何か言おう」とすると，良いアイデアが浮かぶことがあります。哲学者のイマヌエル・カントいわく，人間にはもともと普遍的真理への能力が備わっています。これを発揮できないのは，高校までの教育制度が「正解」だけを暗記する退屈なシステムだったからではないのでしょうか。社会に出れば，そこに「正解」はなく，未来への「進化」があるのみ。古い「正解」にこだわると，「実り」を見失うことも。ゼミ生には，最初は内容的に稚拙でもまったくかまわないので，自分から「しゃべる」ことを求めます。画一的な優等生よりも，他者との「違い」を楽しめる大人になって欲しいのです。多様性は「進化」の原動力です。

僕の専門である経済思想史とは，偉大な経済学者や政策当局者が，「要は，なにを言いたいのか？」をさぐる学問です。むずかしい学説や制度も，つきつめれば人間の「想い」を体現しています。経済の仕組みや身近な出来事も，「人間の思想」によって成り立っています。これらは通常「無意識」領域に追いやられ，意識されないのですが，その核心が理解できれば世界がシンプルに見えてきます。それは究極の他者理解であり，コミュニケーション作業です。同時に，コミュニケーション主体である自己への理解も深まっていきます。

そもそも福岡県に住む大学2年生である「私」は，「無意識」にどのような経済行動をしているのでしょうか？ 案外，見えにくくないのでしょうか。実は，「私」は友人の模倣をしていることが多い。ところが，その友人も「私」の模倣をしていたようだ！と気づくこともあるでしょう。では，

どうして模倣してしまったのか？不安だったから、とりあえず。どうして不安だったのか？メディアで不安を煽るようなことが書いてあったから。メディアはなぜそういう情報を流すのか？と無意識の行動にもある程度共通する原因があるようです。

演習の進め方：

演習Ⅰは、テキストの準備ができるまで英語の輪読を行います。準備ができたら日本語テキスト分担発表をします。次に研究テーマを決めてもらうために、三段階の準備を経て、4,000字程度の期末レポートを完成させます。あらゆる過程で、ディベート、ディスカッション、質疑応答の練習をします。一日に一言も自分から発言しない人は、欠席扱いとなります。飲み会ができない場合は、モノポリーで経済を学びましょうかね。

演習Ⅱは、前期は全員出席が難しいこともあるので何か共通のテキストを輪読・ディスカッションし、後期に入ったころから、本格的に卒論発表・ディスカッションへと向かいます。後期になると就活面接をくぐり抜けたゼミ生たちは皆いっばしの論客になっており、あれこれ本当によく発言します。教員はもっぱら発言を制する役割に回ります。

2年間のおおまかな流れ：

- 3年前期：共通課題（日本語テキスト報告、英語文献、ディベート、ディスカッション）
- 3年後期：研究指導（卒論テーマ探し、ディベート、ディスカッション）
- 4年前期：共通課題（日本語テキスト、ディベート・ディスカッション、就職活動）
- 4年後期：研究指導（卒論作成、ディベート、ディスカッション）

評価方法：

40点：分担発表、準備の程度

60点：ゼミ運営への協力的行為の有無。

形だけの出席ではなく、自発的な発言のみを評価します。

発表時のドタキャンは、即アウトもしくは出席停止です。

他者への配慮や思いやりを欠いた利己的行動には厳しく対処します。

対象：

経済学科の学生のみを対象とします。

ゼミ生の声：

- ・「普段は学生主体でさせてもらっていますが、詰まった時や補足説明などわかりやすく解説して下さいます。頭の中がモヤモヤしていた部分ですが、一気に解消できたことが度々ありました。」
- ・「世界は広い。いや、福岡県ですらかなり広い。そこには君の将来を左右するモノが溢れている。」

もう実感しているはずだ。江里口ゼミでは、自由の風が吹いている。嘘だと思えば遊びに来てよ。きっと虜になるから。」

- ・「緩やかな雰囲気は漂うゼミです。ディスカッションの場が多く、一つの発言が様々な意見を生み、深まっていく事が楽しいです。たまに補足説明を先生がしてくれるのですが、それが解りやすいし面白くて、個人的に大好きです(笑)。聞く力、話す力、場を作る力を身につけたい人にはオススメのゼミです!!」
- ・「江里口ゼミは緩すぎることもなく固すぎることもなく、とてもアットホームな雰囲気の中で活動しています。内容も就活の場や社会に出た時に最も必要となる相手との対話力を主に、様々なスキルを身に付けることが出来ます。」
- ・「江里口先生のゼミでは、生徒が自主的に、かつ自由な討論は場を作っていきます。和んだ雰囲気なため、堅苦しいテーマでも先生も生徒もみんな笑いながら毎週楽しくディスカッションなどを行っています。」

教員自身の声：

- ・「このゼミは良い意味で個性的で芯の強い人が多く集まってくれているように感じます。なので、いつも楽しく授業させてもらっています。そしていつもゼミを熱心に盛り上げてくれているコアメンバーたちは、みなさん就職先も抜群に良いようです。ゼミ生は僕個人としても自信をもって送り出せる好人物ばかりで、会社の人事部もさすがプロだな、と感じています。」

各種ゼミ・イベントについて：

ゼミを盛り上げる企画があれば、幹事を中心に、積極的に出してください。ペースは学生の自由です。教員はサポート役にまわります。最近は百道浜でのバレー、アウトドア・イベント、BBQ、カラオケなどが楽しかったです。昨年度はコロナ禍で、モノポリー大会、安心安全のボウリング大会をなんとか実施しました。

選抜方法：

事前に相談がある人は、eriguchi@seinan-gu.ac.jp まで質問してください。

卒論テーマの例：

「子育て支援と社会保障」、「教育現場の経済学」、「幸福の経済学」、「ソーシャルキャピタルとスポーツ」、「幼児の経済学」、「NPOと社会変化」、「営業の心理学」、「ワンピースに見るリーダーシップ論」、「マルサスと現代」、「インバウンド消費と日本の観光政策」、「音楽業界とCDの売り上げ」、「ソーシャルネットワークとアイドルの宣伝戦略」、「銀行はどう見られてきたか」、「マネジメントと部下力」、「広告とマーケティング」、「日本の農業の将来」、「人間関係とひとの心理」、「スウェーデンについて」、「女性労働と子育て」

相談を歓迎します：

研究テーマについて疑問がある人はメールで質問して下さい。最初は明確なテーマが浮かばないでしょうから、これを機に知恵をひねりましょう。



2016年から2017年にかけて1年間、西南学院大学から派遣されて、イギリス・オクスフォード大学に客員研究員として滞在しました。意外や意外、オクスフォードでは、ちょっとユル過ぎるのではないかと心配になるほど大らかなヒューマニズムと、凜としたジェントルマンのマナーとが両立して高い成果を生み出していました。日本の経済組織の価値規範（お客様第一、働き過ぎ、プライベート軽視）の再考にあたっても有益な事例になる気がしました。英語やイギリスに興味のある人の参加も歓迎します。

歴代ゼミ生の進路・内定先：

日本銀行、ソフトバンク、岡三証券、セブンイレブン、マイナビ、三井のリハウス、佐賀銀行、アパレル関係、農協、北九州市役所、福岡銀行、三井住友信託銀行、肥後銀行、大和ハウス、山口銀行、タカラスダンダード、福岡市役所、日本ハム、都城ケーブルテレビアナウンサー、リクシル、大和証券、ミュージシャン、三菱UFJ銀行、野村証券、日興証券、福岡県庁、各市役所、芸能エンターテイメント事務所、アパレル系、郵便局、農協、第一生命

参加学生の声

活動内容 ●西新公民館を拠点とした夜間の西新校区パトロール
●Instagramを利用したグルメマップの作製

自主性の大切さを痛感。
自由度が高く一人一人の積極的な活動が求められるため
自主性がかなり鍛えられました。
最初は何をすればいいのかわからずただ時間が過ぎていっただけで、何も生み出せなかったんですね。何もしないほど怖いものはないと感じたとき、「自ら考え行動し発信する」大切さに気づけたと思います。




参加学生の声

活動内容 ●まちとみんなを繋ぐ活動

期間ごとに明確な目標を設定する。
自分たちで研究・開発した寄せ鍋の販売と手作りのまち歩きMAPの作成・配布は、試行錯誤の連続でした。しかし地域の方々や本学卒業生の方など、多くの方々が支えて下さったおかげで、大学祭本番では形になって、このときの達成感は言葉にできません。
そして今も新たなプロジェクトに向けて動き始めています。




担当教員：経済学部 教授 小出秀雄

経済学は「理論」が中心の学問といわれています。「景気回復に必要な経済政策とは」「地方創生に有効な策とは」など、私たちの生活を「経済」という視点から分析し、そのメカニズムを知識として身につけていきます。
しかし、知識は「受け身で学ぶ」だけでは、自分のものにはなりません。授業で学んだ理論は本当に正しいのかを実際に検証してこそ、「生きた知識」となります。西南まちづくりラボでは、大学がある西新

や少し離れた経済を実験の場にして、学んだ知識が本当に正しいのかを検証し、知識を生きたものにしてようと取り組んでいます。「地域活性化」をテーマに掲げる活動は、学生のうちに実社会を先取りして体験できるという魅力も併せ持ちます。幅広い年齢層の方々と交流しながら、実際にプロジェクトを動かしていく経験は授業では得ることのできない学びがあり、社会に出てから役立つ実践力やコミュニケーション力、リーダーシップなどを育みます。



《西南学院大学パンフ「まなびのおかわり：産学官連携の取り組み」より（下半分）》

— プロフィール —

1971(昭和46)年11月10日生まれ。新潟県三条市(金物・刃物のまち)出身。「西南まちづくりラボ」顧問。担当している専門科目は、環境政策、各種演習、まちづくり・ひとづくり実習(2022年度より正規科目)。

専門：環境経済学、地域・大学連携、次世代教育。

行政の仕事：春日市環境審議会会長、福岡市環境審議会会長代理、福岡市西部工場再整備検討委員会委員など。

地域的工作：福岡市立百道小学校・PTA元会長(2017年度)、同小・松葉の会元会長(2016年度)。

趣味：福岡市を含む旧筑紫郡のマニアック探索(下図は成果の一例)、ワーク・ライフ・ミックス(働きながら遊ぶ)。

公開情報：大学教員データベース <<http://seis-trinf.seinan-gu.ac.jp/detail/profile/0000001980.html>>、Facebook <<https://www.facebook.com/hideo.koide.96>>、YouTubeチャンネル <https://www.youtube.com/channel/UCT_DmtS6Elmq7yW-XBVHtfQ>



【演習のねらい】

この演習では、SDGs（持続可能な開発目標）に基づく地域づくりを解説したテキストを輪読し研究する「座学」を行う一方、大学周辺地域を具体的な活動・研究フィールドとして、地域の方々やゼミ外・学外の学生有志とともに「実践」します。つまり、座学と実践を行ったり来たり、うまくいったり失敗したりしながら、将来の社会・地域を担う主体的な人材を育成します。

なお、この演習は経済学科の学生を対象としています。

【演習のテーマ、テキストと段取り】

[1] 今のところ、下記のテキストを使用する予定です。

* 寛裕介著『持続可能な地域のつくり方: 未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン』（英治出版、2019年）

[2] テキストを輪読する一方、個人あるいはチームでテーマを設定し、活動・研究報告を行います。また、地域活性化イベントの企画・運営を、日常的に実践します。そして、前期末と後期末には、自分およびチームの活動・研究をまとめる形で、レポートを提出します。

[3] 座学では毎回、報告者1・2名に対して司会者1名をつけ、報告（プレゼン）と討論（質疑応答）を行います。報告者は報告に先立ち、その内容を端的にまとめた「レジュメ」や補足資料を参加者に配布します。レジュメの棒読みになったり単調で退屈な報告になったりしないよう、かなりの工夫が必要です。特にチーム報告では、PowerPointを活用したわかりやすい表現を心がけます。

[4] また、司会者は報告・討論全体を仕切る立場として、参加者に発言を求めたり、議論を総括したりする役割を担います。こちらも神経を使う仕事で、場の流れをつくることが要求されます。

前回より、確実にうまくなりましょう（うまくなるように「頑張る」のは当たり前）。

[5]期末のレポートをいかに作成するかは、非常に重要なテーマですので、指導を徹底します。基本は、文章（一文、一段落）は短く簡潔に、です。なお最近は、インターネット上に漂う文章をコピー&ペーストしたり、図表の出所を書かなかったりする学生が目立ちますが、Moodleの機能“Turnitin”を使って、不正をすぐに暴きます。

[6]小出ゼミを中心とする「西南まちづくりラボ」は、2021年2月下旬にZoomで、「全国まちづくりカレッジ2021 in 福岡～笑～」を開催しました。小出ゼミは普段から、全国の大学の学生たちと交流します。

【参考書 and more】

参考書については、新年度の講義要綱にて、あるいはその都度指示します。インターネットの検索ばかりに頼らず、図書館に所蔵する本や書店に並んでいる新刊などを貪欲に探して読みましょう。もっとも、ネット上にも学术论文や有益な文献が無数に存在しますので、話は単純ではありませんが。

なお、Wikipediaだけ眺めて悟った気になる学生が、年々着実に増えています。手っ取り早く知りたいという（検索）ツールとしてWikipediaは有用ですが、その脚注、参考文献、外部リンクなど、その説明の土台を成している情報までさかのぼって調べていくことが重要です。これは、紙製の文献であっても同様です。その筆者の拠り所としている情報は、脚注や参考文献に明記されています。

現在から過去にさかのぼり、経緯を丹念に調べ、再び現在に戻り整理することによって、学問というものが「検索一発」で理解できる代物ではないことを実感してください。

【評価方法】

出席状況、平常点、レポートの内容、主催あるいは協力イベントへの貢献度に基づいて評価します。

【演習受講者の選抜基準】

面接を行い、座学と実践に対する意欲を確かめます。

【ゼミ生への要望】

時間厳守、みんなに挨拶、自主的な発言、チームワーク、顔の見える活躍

【2020年度の卒業論文のタイトル（在学番号順、抜粋）】

「世界のパンの現状とその波及」「俺とバルサ」「祭りと地域活性化について：大蛇山祭りの魅力」「日本の漫画文化」「野球の歴史と新たな選択肢“準硬式野球”について」「福岡に忍者村を作りたい！」「クラウンとVIPカー：時代と共に変わりゆく車」

【西南まちづくりラボ (2019年度～)】

小出ゼミを中心とする「西南まちづくりラボ」は、何を隠そう福岡市の公認団体です。地域での実践活動には他学科・他学部の学生も参加しており、また、まちづくりに主体的に関わっている全国の大学の学生たちとも交流を行っています。

以下の画像は、2019年度の西南まちづくりラボの活動の一部です。地域行事をサポートしつつ、自分たちがやりたいことを企画・運営しています。2020年度～21年度はコロナ禍のため、思うように活動ができていませんが、その中でも最後の画像で示しているように、少人数で取材に赴き、動画を作成し公開しているチーム (SG 由) もあります。

拠点①

西南まちづくりラボ

M'sコミュニティ (西区姪の浜3-3-35)



2020_10-2019_11

土曜日に小学生と交流

拠点②

西南まちづくりラボ

姪浜公民館 (西区姪の浜2-10-6)



2020_10-2019_11

探検お祭り主催



2020_10-2019_11

夏祭りサポート@姪浜小

拠点③

西南まちづくりラボ

西新公民館 (早良区西新2-10-10)



拠点④

西南まちづくりラボ

西南学院大学 (早良区西新6-2-92)

オープンキャンパスでプレゼン



以上



— プロフィール —

氏 名：丹波 靖博（たんば やすひろ）

担当科目：金融・ファイナンス実習、証券投資論

専 門：ファイナンス、金融工学、金融

趣 味：登山、旅行、アウトドア全般

メールアドレス：y-tanba@seinan-gakuin.jp

職 歴：日本航空、金融コンサル会社、大学教員

【演習テーマと目的】

◇ 楽しくやろう。将来必要な知識、技術、コミュニケーション能力などを身につけるように取り組もう。

社会で必要な「専門知識」や「自分で考え、まとめ、議論し、報告する力」を身につける事を目指します。就活サポートにも力を入れます。以下を中心に、皆さんの希望を反映し具体的実施内容を決めます。

1. 専門知識（金融・ファイナンス・金融工学）

将来、金融機関などで働く際に役立つ内容を取り扱い、テキストや資料の輪読を行います。

2. 業界・企業研究

仕事（就活と就職後）に役立つ知識を調べ、グループディスカッションや発表を行います。

【演習内容】

ファイナンスとはお金をどのように配分するかを考える学問で、我々の生活にも深く関わっています。例えば、「家って買った方がいいの？」「投資ってした方がいいのかなぁ」「老後ってなんとなく不安なだけで、どうすればいいの？」など、お金に関する人生計画に大きく関わっています。これらを金融機関から見ると「住宅ローンをいかに販売するか」「投資運用サービスの提供」「老後資金のサポート」などの知識が必要です。

私はこれまで民間企業、大学教員、金融コンサルティング会社の3つの仕事を経験してきました。金融コンサルティングとは主に銀行、証券、保険などの金融機関などに対し、データ分析によるアドバイスをを行う仕事です。世界的に金融機関に必要な知識は高度化し、これらの問題に対応可能な人材育成が必要となっています。金融業界においてはマイナス金利やデジタル化の遅れなどによる収益性の低下により、FINTECH（ファイナンステクノロジー）、AI（人工知能）、ブロックチェーンやスマートコントラクトなどの新しい発想や技術の活用が必要ですが、日本においてはこれらに対応できる人材が限られています。高度な問題解決を担うために必要な知識や技術を、大学時代から習得していくことを目指し、金融・ファイナンス、業界・会社研究などに関するテキストなどの

輪読により知識や技術を習得します。また、グループディスカッションや発表を通じたコミュニケーション能力の向上や就活指導にも重点をおきます。

【学年ごとの進め方】

演習Ⅰではテキストの輪読を想定します。テキストは受講者の希望により決めますが、下記過去2年間の内容の他に、データサイエンス、資産運用・投資、仮想通貨なども候補です。データサイエンス、資産運用・投資等の場合は、実習も取り入れる予定です。演習Ⅱでは各自が卒論テーマを決め、作成を行います。演習Ⅱの履修は任意で、本ゼミで演習Ⅱを履修する場合は卒論を必須とします。

- ・ 3年：共通課題（輪読、報告、ディスカッション、発表、就活指導など）※輪読の予習は必須
- ・ 4年前期：個別課題の設定と調査（卒論指導、ディスカッション、就活サポートなど）
- ・ 4年後期：研究指導（卒論作成、報告、ディスカッションなど）

※ゼミ生の殆どが3年生からインターンなどに積極的に参加し、都度情報交換のための報告を実施します。本ゼミでは金融関係への就職割合が多いですが、金融関連への就職希望でなくても全く構いません。

※コロナのフェーズにより、授業はTV会議（Google Meet）と対面授業の混合で実施しました。

【評価方法】

報告状況・課題提出・議論への参加状況などを総合的に見て評価します。定期試験は実施しません。

【テキスト】

金融ファイナンスの基本から最新分野まで、内容について受講生の興味・要望を反映し決めます。

<過去の演習Ⅰの使用テキスト>

- ・ 「デジタル革命時代における銀行経営」ボストン コンサルティング グループ 金融グループ
現在の銀行の課題と解決方法について解説した本です。輪読・解説・グループディスカッション・発表により、将来銀行のあり方について独自の意見を持てることを目指しました。
- ・ 「証券アナリスト1次対策総まとめテキスト証券分析2020年試験対策」TAC証券アナリスト研究会

金融機関の投資部門などで必要な証券アナリストの資格本で内容は高度です。中上級者の個人が投資する際にも知っておいたほうが良い内容が多く含まれます。私の「証券投資論」の講義と近い内容です。

【選考方法】

- ・ 選抜の必要がある場合は、志望理由書・成績などを総合的に判断して選抜します。追加の情報が必要な場合は、メールなどを通じて連絡します。今年はコロナのため面接は行いません。

- 本演習は経済学科の学生のみ履修可能です。定員に達しない場合、全ての学生を受け入れます。

【その他】

- 質問は上記のメールアドレス宛にご連絡ください。直接話をしたい方は、TV 会議か私の研究室（学術研究所 102 号室）でお話することも可能ですのでご連絡ください。
- 「証券投資論」を受講することを推奨します。実務に必要なファイナンスの投資論を一通り行いますので、金融機関に就職希望の方、投資に興味のある方に役立ちます。内容は高度です。「金融・ファイナンス」はもっと一般的な内容で易しく、金融機関に就職希望でない方にも役立つ講義です。
- 遅刻・無断欠席厳禁です。やむを得ない場合は、必ず理由とともに事前に連絡してください。
- 課外授業、ゼミコンパ、ゼミ旅行等は、ゼミ生の意向を尊重しコロナの状況も考慮して実施します。私の趣味がアウトドアや旅行なので、これらの実施も大歓迎です。



— プロフィール —

氏名：亀井 慶太（かめい けいた）

生年月日：1985年4月11日（秋田県出身）

担当科目：国際経済学、ミクロ経済学Ⅰ

専門：不完全競争理論

趣味：観る将

メールアドレス：k-kamei@seinan-gu.ac.jp

【演習テーマ】

国際経済学。座学とディスカッションを通じて国際経済を学ぶ。

【演習内容】

皆さんは最寄りのスーパーやコンビニで商品を購入するとき、「ははーん。これは外国産の商品か。よし、買うぞ！」などと意識することがあるでしょうか？おそらくそれほどはないと思います。ところが、「これは純粋に国産なのか？」と意識し始めると、毎日購入するような商品に対して多くの海外企業が関わっていることがわかります。例えば、みなさんが数分おきに触っているスマートフォンですが、その部品に注目すると、その多くは外国産で構成されています。その他にも、私のようにReebokの靴を履き、アマゾンで購入したベトナム産のメーカー不明の服を着ていれば、外国が関わっている製品を購入（間接的には財を輸入）していることになります。このように我々にとって、貿易は（おそらく皆さんが思っている以上に）身近な現象なのです。

実際、世界全体の輸出額は2000年以降、急激に拡大し、世界の国内総生産の約20%程度に到達しています。データから見ても、現代経済において国際貿易は極めて大きな現象となっていることがわかります。これは同時に、国際貿易を介して世界経済が密接につながっていることが示唆されます。それゆえ、我々の経済活動（おにぎりの価格とかバイト代とか有効求人倍率とか）が世界経済から何かしらの影響を受けることが予想されます。では経済学において、国際貿易をどのように議論していけばよいのでしょうか？何を隠そう、それを解明するのが本演習の目的です。

現代経済を理解しようとしたときに、国際的な要因を考慮することは極めて重要です。しかし、このメカニズム全体を一挙に解明しようとするれば、その複雑さから即座に行き詰まることでしょう。そのため経済学者は、世界の経済構造をなるべく単純化して捉えるために単純な（数理）モデルを構築し、そこから議論を開始します。残念なことに、現時点で世界経済を完全に解明している（と思われる）モデルは存在しませんが、各々のモデルを理解・体得していくことを通じて、国際貿易における諸問題—多国籍企業・移民・環境問題・貿易と失業・貿易と所得格差など—に対して経済学的思考方法が身につくことでしょう。（それが本当に「正しい」か、は別として）。本演習は、上記の問題に関心のある学生を歓迎します。

【進め方】

演習Ⅰでは、国際経済学の基礎的知識を習得しながら、グループに分かれて特定のテーマに従って調査・研究・討論（vs）をしてもらいます。演習Ⅱでは、卒論を希望する学生は、自身の興味・関心に従って研究をしてもらいますが、基礎的知識が足りなければ追加課題を出します。卒論を希望しない学生は輪読を中心に行います。

新型コロナウイルスの感染者数の推移によっては、双方向型（Webex などを利用した完全な遠隔講義）もしくはハイブリッド型（遠隔・対面同時進行）で演習を行うことがあります。安定したネット回線の準備とパソコン端末を保有していることが望ましいです。

【評価方法】

報告状況・宿題の提出状況・議論への参加状況などを総合的に見て評価します。

【注意点】

本演習では理論・実証を通じて議論を展開しますが、国際経済に関する時事問題に関しても多少の興味関心を要求します。多少のグラフ・数式・英語と付き合う覚悟はしておいてください。

また、本演習では卒業論文の提出は任意となっていますが、卒業論文の単位を認める基準は極めて高いものとなっており、一年を通じて計画的に取り組んでもらいます。卒業論文執筆希望者はなるべく早く計画を立て、よい論文を作成できるように準備してください。

【テキスト】

（演習Ⅰ）前期・後期：ジョン・マクラレン（2020）「国際貿易 - グローバル化と政策の経済分析 -」，文真堂 3000 円 + 税

【選考方法】

- 本演習は、国際経済学科の学生のみ履修可能です。
- 定員に達しない場合、すべての学生を受け入れます。追加募集を行う可能性あり。
- 選抜の必要がある場合は、成績・受講科目を総合的に判断して選抜します。場合に応じて志望理由書も参考にします。必要に応じて、応募者に周知の上、Webex による面談を行う可能性があります。

【その他】

- 質問があればお答えしますので、以下のメールアドレス宛に連絡をください。

k-kamei@seinan-gu.ac.jp

また、私が研究室（学術研究所，420号室）にいる場合は（忙しくない限り）いつでも対応します。

- 本演習に配属が決定した学生は、通知の一ヶ月以内に私宛（k-kamei@seinan-gu.ac.jp）にメールを送ってください。



(アリババ北京本部にて)

— プロフィール —

所 属：国際経済学科

専門分野：中国経済、流通論、小売業研究、経営史

担当科目：中国経済論

演習のテーマ：グローバル経済社会を考える

趣 味：海外旅行、語学

【演習の概要】

この演習は、グローバル経済とそれを牽引する企業の姿を、中国を中心に、経済史・経営史の方法と競争力の視点によりつつ、一国単位の分析で捉えきれない現象を把握します。本演習では、中国はもちろん、これと関連がある日本、東アジア、北米、ヨーロッパ諸国などをも対象とし、世界的な視野で政治、経済、社会、そして文化的な動態について検討します。

【演習のねらい】

1. 演習Ⅰでは、テキストと新聞記事を輪読・ディスカッションする一方、グループ研究に関する研究計画、調査、報告、討論を行います。その過程では、レジュメの作成、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークの能力を身につけていきます。また、視野を広げ、卒業研究に向けた準備として興味を持つテーマを発見し、調査と研究の基本を学びます。
2. 演習Ⅱでは、卒業研究に向けた研究指導を受けながら、調査・研究の能力を身につけ、研究論文の書き方を習った上で、卒業論文を提出します。
3. 本演習では、国際的な視野を育み、国際的な経験を積むことを目標とします。グローバル化の進展のなかで、自国の経済事情を学ぶだけでは不十分です。本演習では、世界の多様性と普遍性に関する十分な知識を踏まえ、日本語と英語の双方において複雑な社会的・経済的問題について論理的な議論を展開し、世界を理解する能力の獲得を目指します。

【進め方】

演習Ⅰの前期では、グローバル経済に関するテキストの分担発表をします。資料を作成するスキル、わかりやすく説明する技術、ディスカッション・ディベート力の習得を目標として、グループ形式でレジュメを作成し、報告・討論してもらいます。

演習Ⅰの後期は、グループ単位で各自が決めたテーマについて、調査・研究してもらい、研究成果を報告してもらいます。

なお、前期と後期を問わず、毎回最初の20分間に日経新聞の輪読・議論を行います。新聞記事を読むことを通じて、視野を広げ、卒論テーマを見つけることを期待します。

4年の演習Ⅱは、卒業論文や卒業研究に向けた指導をメインとして進めます。前期は、論文の書き方

の習得と卒論テーマの選定を目標とします。研究論文の書き方を注意して論文や研究著作の輪読と議論をしてもらいます。また、卒論のテーマと構成を決めるように、卒業論文に関して2～3回の間接報告をしてもらいます。報告の後に、必要な指導をしますので、卒業論文について心配はしなくても大丈夫です。後期は、引き続き指導を受けて、卒業研究の報告と卒業論文の提出をしてもらう予定です。

【ゼミのおおまかな流れ】

- ・3年前期：①日経新聞の輪読 ②グローバル経済に関するテキストの輪読・議論
- ・3年後期：①日経新聞の輪読 ②卒論の準備：グループディスカッション&報告
- ・4年前期：①グローバル経済・論文作成に関するテキストの輪読・議論 ②卒論報告
- ・4年後期：①卒業研究の報告 ②卒業論文の提出

【テキスト・参考書】

1. 『日本経済新聞』（最初の20分に新聞記事を輪読して議論してもらう予定です。）
2. 輪読テキスト：学習歴・読書歴を聴取の上テキストを決めたいと思います。グローバル経済の基本から、これから必要となる最新分野まで、内容について受講生の要望を反映できるテキストを選びましょう。

【評価方法】

テストはなく、授業の発表や出席が重視されます。

【選考方法】

1. 選抜の必要がある場合に、書類選考となります。追加の情報が必要であれば、メールなどを通じて連絡します。
2. 本演習は国際経済学科の学生のみ履修可能です。
3. 定員に達しない場合、全ての学生を受け入れます。

【その他】

1. 無断欠席厳禁です。やむを得ない場合は、必ず理由とともに事前にご連絡ください。
2. 授業中に積極的にディスカッション・議論してください。自主的な発言やチームワークを重視します。
3. 予備知識は特に必要ではありません。
4. グローバル経済、アジア経済、海外事情、社会について興味を持っている方はぜひご参加ください。
5. ゼミ内容について質問があればお答えしますので、shirui@seinan-gu.ac.jpにご連絡ください。
6. 海外見学・海外体験が好きな人は大歓迎です。コロナウィルスの影響でフィールドワークなどの実施は難しいですが、授業中ビデオ資料と書籍で海外体験を積みましょう。

立石 剛 ゼミ

— プロフィール —

担当科目：アメリカ経済論

[1] 研究テーマ

立石ゼミナールでは、アメリカ経済およびその国際経済関係の行方を深く考えることを目的とします。そのために、以下のテーマでアメリカ経済を探求したいと考えています。

1. 「アメリカ経済の成長と構造変化」

アメリカ経済は驚くべきスピードで変容しています。1980年代中頃は日本経済の興隆とアメリカ経済の衰退が指摘された時期でした。それから10年後の1990年代にはアメリカ経済でのIT革命と金融活況そして日本経済の長期不況のように状況が180度変化しました。そして2000年以降、アメリカ経済は金融危機など不安定な側面を見せましたが、それでもGAFAsの興隆など経済成長と変化を続けています。他方で、金融危機をきっかけにアメリカは日本のように長期停滞経済に突入したとの議論も見られます。この議論は、アメリカの金融財政政策を考える際に重要な分析視角を与えてくれます。

2. 「アメリカの経済格差とその政治経済的インパクト」

アメリカ経済の変化は経済格差の拡大という大きな問題を伴っています。アメリカの経済格差は伝統的に人種や民族の違いと密接に関連しています。アメリカでは格差はいわば移民社会の縮図のように思えます。こうした伝統的格差に加えて、近年は学歴や職種に基づいた同じ人種や民族内部での格差が拡大しています。なかでも、白人を中心とした豊かな中間層が「Haves」と「Have-nots」に分裂しつつあることが指摘されています。この新しい経済格差は、「保守共和党対リベラル民主党」という従来の政治構造に、「持つ者対持たざる者」という対立軸を加えることで、アメリカの政治構造に影響を与え始めています。

3. 「アメリカ経済の内向化と世界経済の行方」

1990年代以降、アメリカ経済では、対外資本流入や対外生産依存そして移民の流入が増大することで、グローバル化が進展しました。こうしたグローバル化は、世界的な資本取引や貿易取引の自由化によっても促進され、しかもアメリカ自らが先導して形成してきたのです。しかし近年、グローバル化に対して、アメリカ国民の多くがその恩恵を受けていないと感じているようです。アメリカ2大政党の共和党および民主党のどちらもが、TPPや移民に批判的立場をとり、グローバル化からの一定の後退を主張しています。アメリカが主導して形成した世界経済は転換点を迎つつあるのかもしれませんが。

[2] 演習の進め方

演習Ⅰでは、アメリカ経済に関する基本的知識の獲得と説明力を身につけてほしいと思っています。具体的には授業前にあらかじめ講義資料に目を通してもらい、それを題材として、授業では知識の確認やディスカッションを中心に楽しく進めます。アメリカ経済に関するゼミですので、英語文献も利用します。また経済学部生であれば身につけておかなければならない大学レベルの教養(知識や技能)を是非とも身につけてほしいと考えています。立石ゼミでは、自然とそのような教養が身につくように工夫したいと思います。これらの知識と能力は、就職活動でも役立つと思います。

演習Ⅱでは卒業研究を念頭に置いて、多くの文献を読みこなし、(そしてそれらを就活のネタにすることを踏まえて)レポートを作成してもらいます。そのうえで、12月末を目途にして卒業論文を提出してもらいます。テキスト・参考文献などは、卒業論文の執筆を念頭において、皆さんと相談のうえで決定したいと思います。演習Ⅱは出席およびレポートで、卒業論文は提出された卒業論文で判断して評価します。ちなみに立石ゼミでは、よほどの事情がない限り、卒業論文を提出することになっています。

また立石ゼミでは、立石ゼミの先輩方にオンラインで就職活動に関するアドバイスをしてもらっています。年齢的に近い先輩方の話ですので、就活にも役立つと思います。またコロナが収まった暁には、是非とも懇親会やゼミ合宿など行い、ゼミ生間の交流を図りたいと思います。

[3] ゼミ生の選考基準

大学で修める学問は即効的に社会に役立つものではありません。大学とは通常では見過ごされがちな問題に好奇心を抱き、その探究を行い、真理を発見するという非常に高度な知的作業を行うところです。それは社会に出た後では決してする事の出来ない非常に豊かな知的活動です。(ちなみに卒業生の多くはなぜ大学時代にもっと学問をしておかなかったのだろうと後悔する人が多くいます。)当ゼミナールでは基本的に知的関心が高く、自らその疑問を解決しようとする積極的な学生を歓迎します。もちろんそうでなくても大丈夫です。一緒に学問することで、知的活動に関心を持てばそれで結構です

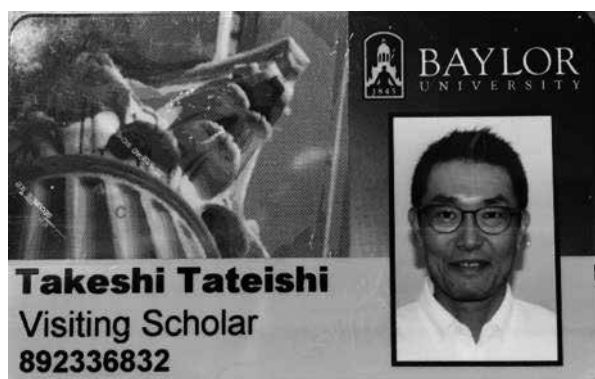
私が想定している人数以上の応募があれば、提出書類などにて選考します。その際、アメリカに関する基礎知識が豊富な人や英語文献にアレルギーがない人は歓迎しますので、応募用紙で具体的にアピールしてください(例えば、自主的に読んだことのあるアメリカに関する文献名やその感想、英語検定試験の成績など)。なお立石ゼミには国際経済学科生のみ応募することができます。

何か質問などがあればメールにて受け付けます。返事は多少時間がかかりますが気軽に質問して下さい。

メールアドレス：tatetake@seinan-gu.ac.jp

『大学は、生計を得るためのある特定的手段に人々を適応させるのに必要な知識を教えることを目的とはしていないのです。大学の目的は、熟練した法律家、医師、または技術者を養成すること

ではなく、有能で教養ある人間を育成することにあります。』J.S. ミル『大学教育について』（岩波文庫）



2015～16年の間、アメリカテキサス州のベイラー大学に交換教授として派遣されていました。アメリカの南部は初めて訪れたのですが、良い意味で期待を大きく裏切ってくれました。テキサス州はアメリカ第二の経済規模を誇り、今後の成長が見込まれています。ゼミでは、日本人にはあまりなじみのない南部での体験についても出来るだけ伝えていきたいと考えています。